

大曾根の料理旅館「十州楼」

名古屋まちづくり公社主催の「十州楼」の見学会に行ってきました。「十州楼」は、北区にある昭和11年～12年築の大規模な料理旅館です。登録文化財です。営業は数年前にやめられたそうですが、今日は所有者のご厚意により見学をさせていただくことが出来ました。



十州楼の前身は澤屋といい、文政年間に創業したそうです。その後繁盛し、明治15年には現在の大曾根交差点地点の広大な敷地に2階建ての大規模な料理旅館を建造されました。

当時は、周りに大きな建物はなく眺望に優れ、恵那山や御嶽山を含む十州「尾張、三河、遠江、信濃、美濃、加賀、越前、近江、伊賀、伊勢」の山々が望めるとして十州楼の屋号が付けられたとのこと。伊藤博文も利用したそうで、当時の繁盛っぷりがうかがえます。ですが、大曾根の道路拡張に伴い、昭和27年に閉店されました。

現在の十州楼はその分家として開設されたものです。建物は数寄屋風で、創建当初からほとんど改造がなく、空襲の被害もほとんどなかったそうです。

広大な広間を持ち、離れ・式場を伴う建物の構成は、戦前の料理旅館はこんな感じだったんだという歴史を今に伝えてくれる、貴重な存在であるといえます。

今は、営業はされていませんが、今後何らかの形で復活することを切に願います。



←2階にある大広間。百畳の大広間と呼ばれているだけあって、本当に広い！

写真奥の床の間もこの空間に併せてつくりが全体的に大きく、床柱はかなり巨大です。



←大広間にある欄間障子。縦割りの竹、梅の花を切り抜いた杉板、松を意味する吹き寄せの縦組子。松竹梅を表現している。



←建具の細工も細かいです。当時の技術の高さを随所で感じます。



最下段のすりガラスは、2色の違うガラスを使っているんです。→



↑某大学の先生が「大工さん、遊んでるなあ」とおっしゃっていました。

(T.K)